

連合2025平和行動

in
長崎

8月8日(金)～9日(土)に連合2025平和行動in長崎が開催され、連合熊本から19人が参加しました。1日目は被爆80年連合2025平和ナガサキ集会、2日目は出島メッセ長崎において「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」をWEBで視聴参加し、その後連合長崎青年委員会によるピースガイドから説明をうけながら、ピースウォークに参加しました。

「長崎を最後の被爆地に」という言葉を胸に、未来に核の悲劇を絶対に繰り返してはならないと強く思いました。(渡邊)

核の脅威が増しているなか、若いみなさんへのエールと「長崎を最後の被爆地に」と願う二日間となりました。(仲本)

各国の核保有率が上がり、再び戦争が起きようとしています。今からでも遅くない。行動を起こすべきなのだと思います。(三隅)

二度と悲惨な悲劇を起こさない、起こさせないためにどう行動すべきかを考えさせられた。まずは、聞いたこと見たことを家族や身近な人に伝えたい。(濱田)



平和祈念公園にて

戦争を経験した祖母から「戦争は人間を破滅させる行為」と聞かされてきた。今回学び感じたことを伝えていくことが重要だと感じました。(中村)

若者たちが平和の願いを訴える姿「ビリョクだけどもリョクじゃない」との言葉に感銘を受けました。どうかこの思いが届きますように。(木庭)

長崎に集う人達の平和を願う気持ち、意識の高さを肌で感じました。対話を大切に。自分にできる平和行動を実践していきます。(和田)

平和行動 in 長崎行動参加者

渡邊智美(自治労) 宇土龍二(自動車総連) 山口誠一郎(電機連合) 福永浩之(UAゼンセン) 荻島晃(電力総連) 富士光博(交通労連) 園田晃裕(熊本教育ユニオン) 森川鉄也(熊教組) 松本季実子・松本一希(国公連合) 三隅幸奈(紙パ連合) 濱田享二(JR連合) 甲斐佐知子(全国ガス) 中村瑞稀(人吉球磨地協) 原田祐作(天草宇城上益城地協) 仲本千恵子(熊退連) 乗富あずさ・和田幸子(女性委員会) 泉秀明(連合熊本) 木庭真優美(肥後有明地協)

連合2025平和行動

in
根室

9月5日(金)～8日(月)に連合2025平和行動in根室が開催され、連合熊本から6名が参加しました。6日は北方四島交流センターにて北方領土問題の経緯や現状を学び、「ふるさと北方四島への想い」と題して、元島民の声に触れました。7日は納沙布岬・望郷の岬公園にて、2025平和ノサップ集會に参加しました。

平和の尊さとそれを守る難しさ。戦争や領土問題を「他人事」にせず、私たち一人ひとりが関心を持ち続けることの大切さを感じました。(松田)



ノサップ集會にて

北方四島が見える現地(根室)に出かけたことによって理解が深まり、戦後80年になっても解決していないことが多くあることがわかりました。(村枝)

『次に繋げてほしい』という元島民のまっすぐな想い。それは、次の世代に繋ぐ強い母国への愛。～念ずれば花開く～いつか故郷に帰れる日を願って。(奥山)

自分だけが平和、自分だけの平和では済まされない。元島民の方々が減少していくなか、ともに声を上げ続けていかねばならないと改めて思った。(松元)

北方領土問題について関心を持ち、自分事として考えていくべきだということをたくさんの人に伝えていきたいと思います。(有村)

平和行動 in 根室行動参加者

松元寿幸(情報労連) 松田一剛(UAゼンセン) 村枝哲弥(熊教組) 奥山莊秀(運輸労連) 有村瑠奈(全労金) 齊藤智洋(連合熊本)

編集後記

今年は戦後80年でわたしの父も今年80歳になりました。もう少しで戦争が終わるという8月1日に父は朝鮮で生まれ、終戦後日本に戻ることにになります。生まれたばかりの父は栄養状態が悪くとても衰弱していたので、周りから「日本に連れて帰ってもこの子はダメかもしれない。ここにおいて日本に帰ったほうがいい」と強く説得されたと聞いています。父が日本に生きて帰れなかった命であれば、わたしはこの世には生まれてこなかったでしょうし、連合とのご縁がありません。戦後80年の「平和の取り組み」は、そのような使命感をもって取り組むことができました。今後、戦争体験を証言する方々が激減していくなかで、わたしたちはどう生きるか。改めて考えるタイミングかもしれません。(Nami)

Topics

RENGO KUMAMOTO

連合熊本第19回定期大会を開催します

- 日時
2025年10月24日(金) 13:30～
- 開催場所
熊本城ホール 大会議室A
(熊本市中央区桜町3番40号
TEL 096-312-3737)
- 議案
第1号議案 2026～2027年度運動方針(補強案)
第2号議案 規約・規程改正(案)
第3号議案 特別参加組織の加盟承認(案)
第4号議案 2026年度予算(案)
第5号議案 役員改選
その他

■地方委員定数					
構成組織	委員数	構成組織	委員数	構成組織	委員数
自治労	14	熊教組	1	全国ガス	1
自動車総連	12	フード連合	2	全自交労連	1
JP労組	10	国公連合	2	サービス連合	1
UAゼンセン	12	JR連合	2	ゴム連合	1
電機連合	8	運輸労連	2	メディア労連	1
情報労連	4	紙パ連合	2	労済労連	1
JAM	4	熊本教育ユニオン	1	JR総連	1
電力総連	4	JEC連合	1	印刷労連	1
自治労連	4	私鉄総連	1		
交通労連	4	森林労連	1		
基幹労連	4	全労金	1		
				合計	104

■特別代議員定数		
・女性特別代議員	各構成組織より	1名
・地域協議会	各地域協議会より	1名
・特別参加組織	連合熊本ユニオン	1名



くらしをまもり、未来をつくる

連合熊本

3811

情報

発行 日本労働組合総連合会
熊本県連合会
発行・編集人 山本 寛
〒862-0976
熊本市中央区九品寺1丁目17-9
☎(096)375-3811 FAX (096)375-3017
印刷所 株式会社 チューイン
2025年9月25日発行 No. 395

物価高騰の中での最低賃金審議 過去最高の引上げ額82円で結審

952円
→1,034円
発効日2026.1.1

9月4日(木) 第55期第5回熊本地方最低賃金審議会(構成15人のうち連合熊本5人)が行われ、熊本県における2025年度の地域別最低賃金の改定額を82円(Cランク目安額64円+18円)の引上げの時給1,034円にするよう金谷熊本労働局長へ答申しました。また、発効日については、8月の記録的大雨(水害)による事業者への影響を考慮し指定日発効 2026年1月1日で労使とも合意しました。今後、9月22日(月) 第55期第6回熊本地方最低賃金審議会(異議審)を経て確定されます。

中央審議会 昨年に引き続き、物価高騰の中での審議となりましたが、今年の中央審議会では、労働者側の主張として、物価・賃金・雇用などのデータにもとづく地域間「額差」の改善に

つながる目安が求められ、A・Bランク63円・Cランク64円と、初めてCランクがA・Bランクを上回る目安額が示されました。

熊本地方審議会 これを受け、熊本における審議は、8月12日から、具体的な審議がスタートしました。労働者側からは、①賃金、②生計費、③熊本県内の社会情勢などの三要素に加え、地域間格差是正と10月1日の発効を意識した見解を表明し、これを根拠に目安への上積みを訴えました。

公益側には一定の理解を得てきましたが、一方の使用者側は、賃上げ状況や物価上昇などから最低賃金の引き上げには一定の理解が示されたものの、価格転嫁が進んでいない企業も多く、こちらへの配慮も必要であり、大幅な引上げはできないとの主張でした。

また、使用者側は、8月10日～11日にかけての豪雨災害直後で企業の被害状況が不透明なため、1回目の金額提示を保留するなど金額審議について影響を与えました。

結審 金額審議は、計7回の審議を重ねてきました。豪雨災害の影響を考え発効日は指定日発行で労使とも了承しましたが、提示額は大きな開きがあり一致点を見出せなかったことから、最終的には公益側から「目安64円プラス18円の82円引き上げの1,034円」で提案が出され、採決を行うこととなりました。その結果、賛成多数(使用者側は、反対2名、退席3名)で、公益側提案のとおり「1,034円」での結審となりました。なお、発効日は、豪雨災害の影響を考慮し、2026年1月1日を発効日とすることになりました。

【今後の課題日程】

- ・特定(産業別)最低賃金専門部会審議開始 ※各部会で計3回の専門部会を開催予定
[第1回] 10月7日(火) 10:00～ 自動車・同附属品製造業、船舶製造・修理業、船舶機関製造業
[第1回] 10月20日(月) 10:00～ 電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業
- ・熊本県最低賃金一斉周知活動 熊本労働局にて日程調整予定

2025年度 九州各県の最低賃金額改正状況

県名	福岡	佐賀	大分	長崎	鹿児島	熊本	宮崎	沖縄
ランク	B	C	C	C	C	C	C	C
現行額	992	956	954	953	953	952	952	952
引上げ額	65	74	81	78	73	82	71	71
2024年度最低賃金額	1,057	1,030	1,035	1,031	1,026	1,034	1,023	1,023
引上げ率	6.55%	7.74%	8.49%	8.18%	7.66%	8.61%	7.46%	7.46%
発効日	指:11月16日	指:11月21日	指:1月1日	指:12月1日	指:11月1日	指:1月1日	指:11月16日	指:12月1日

発効日: 発効年月日に労働した分の賃金から、最低賃金を下回る賃金は強制的に最低賃金に引き上げられます。

2025年度地域別最低賃金額



県最賃 全国最大82円上げ

25年度 熊本地方審 1034円答申

熊本労働局は、9月4日(木)に開催された第55期第5回熊本地方最低賃金審議会において、2025年度(2026年1月1日発効)の最低賃金について、県民代表者、労働者代表者、事業者代表者からなる審議会が、最低賃金を82円引き上げた1,034円を決定した。これは、過去最大の引き上げ額となる。また、発効日は、8月の記録的大雨(水害)による事業者への影響を考慮し、2026年1月1日を指定日発効と合意した。

最低賃金は、労働者の生活の安定と労働力の確保に重要な役割を果たしている。今回の引き上げは、物価高騰の影響を緩和し、労働者の生活を支えることにつながる。また、事業者側にも一定の理解が示されたことから、労使双方が納得のいく結果となった。

熊本労働局では、今回の決定を周知し、労働者の権利を保護するための取り組みを継続して実施していく。また、今後の審議会でも、労働者の生活と労働力の確保を最優先とし、適切な最低賃金の決定に取り組んでいく。

全国で初の千円突破

熊本県は、2025年度(2026年1月1日発効)の最低賃金を1,034円に引き上げた。これは、全国で初めて千円を超える最低賃金となる。この引き上げは、労働者の生活の安定と労働力の確保に重要な役割を果たす。また、物価高騰の影響を緩和し、労働者の生活を支えることにつながる。熊本労働局では、今回の決定を周知し、労働者の権利を保護するための取り組みを継続して実施していく。

連合熊本 戦後・被爆80年特別講演会

連合熊本は5月24日（土）熊本市国際交流会館にて、「戦後・被爆80年特別講演会」を開催し、組合員と関係者150人が参加しました。

ウエルカムビューイングでは、日本被団協の活動を通して、被爆者の核兵器廃絶にかける思いを描いたドキュメンタリー「屍を越えてオスロの灯」を上映しました。続いて昨年「ノーモア・ヒバクシャ」を世界に訴え続けノーベル平和賞を受賞した、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の箕牧智之代表委員から「被爆体験と私のあゆみ」と題して講演

いただきました。被爆当時3歳だったご自身から見た広島の様子や、ノーベル平和賞受賞が決まった瞬間のウラ話やオスロでの授賞式の様子などが語られました。なかでは、子どもたちが空



日本被団協 箕牧智之代表委員

腹をしのぐために雪を食べていたという当時の様子は、聞いた参加者の心に、強く印象に残ったようです。講演後には、参加者からのたくさんの質問や意見に丁寧に答えられました。最後に「『核抑止力』と言っているあいだは、核兵器廃絶の実現はない」と訴え、「若い世代のみなさんには核兵器がなくなるまで運動を続け、訴えてほしい」と締めくくりました。ロビーでは原爆パネルの展示と核兵器廃絶1000万署名、連合平和行動in広島と長崎へ献納する千羽鶴を作るブースを設け、たくさんの方にご協力をいただきました。



原爆パネルの展示



青年委員会は「継承」について質問



98羽の千羽鶴が完成しました



130筆の署名が集まりました



箕牧さんを囲んで記念写真 150人が参加

第17回 連合熊本 ピースアクション



連合熊本
霜出副事務局長



連合熊本
友田会長



連合熊本
木村国民運動委員長



勝又事務局長の講演



女性委員会 和田副委員長



青年委員会 徳本副委員長

連合熊本は8月30日（土）、熊本市国際交流会館にて第17回ピースアクションを開催し183人が参加、今年も女性委員会と青年委員会の朗読「ヒロシマ 消えたかぞく」でスタートしました。

霜出副事務局長の司会進行で、連合熊本友田会長による主催者挨拶、そのあと、菊池飛行場を未来へ伝える会の勝又俊一事務局長が「戦後80年の意味と平和学習～菊池飛行場からみた戦争～」と題して講演を行いました。勝又事務局長は、今年が「戦後80年」と大きく取り上げられている意味として「今年が戦争体験者から証言を聴けるタイムリミットである」と語りました。

続いて、連合2025平和行動に参加した徳本佳大青年委員会副委員長からは沖縄の報告、和田幸子女性委員会副委員長からは長崎の報告がなされました。そのあと高校生平和大使の松本



女性委員会と青年委員会の朗読

聡也さんと外尾泰羽さんからの活動報告があり、最後に木村国民運動委員長が全体のまとめをおこない集会は閉会しました。

会場では、「核兵器廃絶1000万署名活動」と「目で見える戦時下の暮らし」



当時の子どもたちが遊んだすぐろく



下通での街頭署名活動

高校生平和大使の活動報告として、軍事色濃い子どもの着物、ポスターや絵本などが展示されました。集会終了後に、青年委員会と女性委員会が街頭にて核兵器廃絶1000万署名をおこない、会場・街頭あわせて104筆の署名が集まりました。

連合2025平和行動

in
沖縄

初日が「沖縄慰霊の日」である6月23日（月）～25日（水）に連合2025平和行動in沖縄が開催され、連合熊本から11名が参加しました。1日目の2025平和オキナワ集会では、基調講演「新たな安全保障を旨として」と平和式典に参加し、2日目には、普天間基地やひめゆりの塔などを巡るピースフィールドワーク「戦跡コース」に参加しました。

当時を語り継ぐことが難しくなっている。戦争を知らない我々が後世に語り継がないといけない。そのきっかけになる貴重な体験となった。（徳本）

戦争の実体験を語れる人が少なくなる中で「私たち若い世代がしっかり想いを繋いでいく」とのピースガイドの言葉に感銘を受けた。（倉井）

原爆が一瞬にして多くの命を奪ったのに対して、米国兵、日本兵による虐殺、ついに集団自決に追い込まれた長期にわたる沖縄戦は残虐非道ではなかったでしょうか。（武藤）



平和公園での参加者写真

戦跡を回りながらその悲しさを感じる事が出来ました。今なお残る沖縄の基地問題等の解決に向けた行動に、積極的に参加していきたいです。（坂井）

ひめゆりの塔で感じた生々さとリアル感。戦争は絶対やってはいけません。今回の経験を微力ながら、後世に繋げていきたいです。（吉田）

平和祈念公園には、広島・長崎とは違った資料が多数あり、改めて戦争の悲惨さを感じました。天候に恵まれ、貴重な体験ができました。（山下）

沖縄の美しい自然や文化に富んだ魅力的な印象は、戦後人々の努力があったからこそだと思う。次世代として平和の尊さを考え、語り継いでいきたい。（坪井）

沖縄の人々がいかに悲惨な状況に追い込まれたか。いまや政府は防衛費を増大、専守防衛だけでなく積極攻撃も可能な国へ。この暴走を一刻も早くやめさせねばと強く感じた。（園田）

平和行動 in 沖縄行動参加者

坪井揺安（自動車総連）鬼塚由莉奈（電力総連）園田晃裕（熊本教育ユニオン）吉田勇人（JAM）武藤直也（国公連合）倉井康行（紙バ連合）坂井徳明（天草宇城上益城地協）徳本佳大（青年委員会）山下百合（女性委員会）豊永忠臣（県教組）徳富幸平（連合熊本）

連合2025平和行動

in
広島

8月5日（火）～6日（水）に連合2025平和行動in広島が開催され、連合熊本から8人が参加しました。1日目は連合広島青年委員会のピースガイドによる被爆路面電車学習会の後、連合2025平和ヒロシマ集会と連合原爆死没者慰霊式に参加し、2日目は広島国際会議場にて「広島市平和式典」をWEB視聴参加し、黙とうをささげました。

被爆電車から被爆の実相を沿線の被爆建物を見ることで学ぶことができ、平和の尊さを次世代に確実に引き継いでいかなければならないと感じた。（今永）

「足元には原爆で遺族のもとに戻れない方々が眠っている。踏んでごめんねと思ってください」という切明さんの言葉。事実を自分事として強く感じました。（松坂）



千羽鶴を献納しました

初めて参加しました。現地の集会や建物などの空気感が実感でき、平和の大切さを再認識できました。ラブ&ピースを胸に生きていきたいです。（弓場）

被爆電車や被爆者の話で、当時のリアルを感じて胸がいっぱいになりました。式典では、静かな雰囲気の中で平和の大切さを改めて考えさせられました。（浜端）

被爆80年、被爆地ヒロシマを感じる事ができました。核兵器の保有を許さない一人として、行動していきたいです。（澤本）

平和行動 in 広島行動参加者

松坂紀香（UAゼンセン）弓場祥平（UAゼンセン）浜端竜一（電力総連）貢博之（交通労連）今永顕一郎（JR連合）澤本伸生（県南地協）友田孝行（連合熊本）霜出奈美（連合熊本）